



国立大学法人
豊橋技術科学大学

IT食農だより

発行元：豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

住所：〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

TEL: 0532-44-6655 FAX: 0532-81-5108 E-mail: manager@recab.tut.ac.jp

2019年7月15日

No. 68

社会人向け実践教育プログラムの 受講生募集

本センターでは、地域の担い手となりうる若者等の定着を目指し、豊橋技術科学大学等で蓄積された技術科学的な成果を踏まえて、農業の人材育成プログラムを実施しています。

1. 「東海地域の6次産業化推進人材育成」

この事業は、農業者や農業分野へ新規参入を検討している企業関係者などを対象に、農商工関連ビジネスなど6次産業を設計し、その実施に向けた意思決定ができるようになる人材を育成するプログラムです。募集概要は、①募集人数 15名、②募集期間 6月14日～8月2日、③受講期間 10月～1月(約4ヶ月)、④受講料 8万円(農業者5万円)(他割引制度あり)。修了後は、国家戦略プロフェッショナル検定「6次産業化プロデューサー(食Pro)」キャリアアゲントレベル3に申請することができます。

2. 「最先端植物工場マネージャー育成プログラム」

「IT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)」
本事業は、新たに植物工場及び土地利用型農業にITを導入するための講義・実習を行い、管理経営ができる人材を育成するプログラムです。募集概要は、①募集人数 「植物工場マネージャー」 10名、「土地利用型」 5名、②募集期間 7月19日～9月6日、③受講期間 令和元年12月～令和3年3月(約1年4ヶ月)、④受講料 15万円(農業者8万円)です(他の割引制度あり)。いずれのプログラムも、社会人の方が受講しやすいように教室講義や視察等

を土日中心に行っており、その他の講義はeラーニングにより自宅でも受講できます。両プログラムとも受講者の各人の課題に応じた、課題解決技術科学研究を行っていただきます。

意欲のある方、大学で学んでみませんか。お問い合わせ先

国立大学法人 豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

◆東海地域の6次産業化推進人材育成

電話 0532-44-1016

メール Gjisangyo@recab.tut.ac.jp

◆最先端植物工場マネージャー育成プログラム

電話 0532-44-6655

メール manager@recab.tut.ac.jp

◆IT食農先導士養成プログラム

(最先端土地利用型IT農業コース)

電話 0532-44-6655

メール sendoshi@recab.tut.ac.jp

詳細はホームページ

(<http://www.recab.tut.ac.jp/>) に記載しています。

第3回先端施設研修・先端IT農業研修

5月25日(土)に第3回先端施設研修・先端IT農業研修を実施し、植物工場マネージャー7期生が7名、IT食農先導士(土地利用型)3期生が8名参加しました。今回、鈴木春雅氏(6次産業化5期生)の(株)鈴木農園と鈴木永夫氏(6次産業化2期生)の鈴木ファームの2か所を視察しました。(株)鈴木農園では、イチゴの施設栽培を視察し、(株)鈴木農園の新たな取り組みと

して、労務管理による生産性向上について教えていただきました。鈴木ファームでは、葉ネギの施設栽培を視察し、葉ネギ以外の作目の生産状況や外国人労働者の受け入れ時の問題点についても教えていただきました。受講生からも生産、経営の両面から多くの質問があり、活発な情報交換が行われ、有意義な視察となりました。(文責…熊崎 忠)



(株)鈴木農園での視察の様子

食農産業クラスター推進協議会 企業PR展

先端農業・バイオリサーチセンターは、6月18日(火)豊橋サイエンスコアで開催された「食農産業クラスター推進協議会 企業PR展」(主催…食農産業クラスター推進委員会)に出展

し、多くの方にお越しいただきました。本展示会は、豊橋市、田原市を中心に、農業、農業関連産業、食品産業、支援・研究機関、業績機関等の連携から生み出される「食」と「農」をテーマとした農水畜産物・技術等の新しい価値を全国に発信し、地域産業全体の発展を目指しています。

本センターは、6月から受講生募集が始まる始まる人材育成講座の紹介パネルを出展しました。
(文責：加藤元志)



先端農業・バイオリサーチセンターブースの様子

季節の花 アサガオ

アサガオ(学名: *Ipomoea nil*) は、熱帯地域(アジア、アメリカ)原産のヒルガオ科サツマイモ属の一年生植物です。日本へは奈良時代に中国から伝来したつる性の一年草で、あんどん仕立てやつるを長く伸

ばしてカーテンのように仕立てる方法が代表的ですが、つるが伸びない矮性の品種もあります。

種子が発芽する気温は20℃〜25℃と比較的高温です。種子の蒔き時は5月〜6月が良いでしょう。アサガオの種子は表皮(カラ)が固いので発芽の手助けをするために「芽切り」を行います。芽切りは、種子の表面を傷つける作業です。カッターや爪切り、ニッパーなどで種子の表面を少し削ります。深さは中の白い部分が少ない見える程度です。鉢に直接播種して、育てるのが一番簡単です。4号(直径12 cm)鉢に6号(直径18 cm)鉢に1株が目安です。箱やポットなどに播種して発芽後に植え替える場合、本葉が7枚〜8枚の頃までに行いましょう。

日当たりを好むため、午前中いっぱい日は当たる場所で育て



ましよう。土の表面が白く乾いたらたっぷり水を与えます。真夏の水やりは朝夕の涼しい時間帯に行いましょう。肥料は植え付ける際に土の中にゆっくりと効くタイプの粒状肥料を混ぜ込んでおきます。その後は1週間に1回の割合で液体肥料を与えます。薄めるタイプの液体肥料は鉢植えの草花に与えるのと同じ濃度です。また、アサガオは色々な仕立て方がありますが、あんどん支柱に絡ませる方法が簡単です。つるの先端を摘み取る「摘心」を行った方が、つるの数も増えて、ポリariumが出来ます。緑のカーテンにする場合も、同様に摘心を行って、つるの数を増やすとよいでしょう。
(文責：山内高弘)

旬の食べ物 イチジク

学名: *Ficus carica* L.
英名: Fig

イチジクはクワ科イチジク属の落葉樹木です。イチジクを漢字で書く「無花果」ですが、花がないわけではありません。イチジクは果実の中に小さな花があります。果実を切ったとき、赤みを帯びたつぶつぶが見えますが、あれが花です。私たちが食べている部位は、厳密には果実ではなく、花の花軸という部位が肥大したものです。

イチジクは愛知県が生産量日本一の果物です。イチジクの栽培風景を見たことがありますか? 畝に沿って主枝をまっすぐに伸ばしてあります。この整枝法は、「二文字整枝」

と言われる方法で、昭和34年の伊勢湾台風のとくに生み出されました。この台風によって、ほとんどの樹が倒れてしまいました。翌年、倒れたままの樹から芽生え、結実しました。従来よりも収穫しやすいい位置に果実を着け、さらに品質の良いものとした。これが「二文字整枝」導入のきっかけとなりました。

イチジクは収穫が始まると長期間収穫できませんが、成熟した果実は雨に弱く、鳥害を受けやすいので注意が必要です。果実は生食のほか、ジャムにも適し、ワインも作られています。種類としては、ほとんど秋果しかとれない秋果専用品種、秋果だけでなく夏果も比較的とれる兼用品種、夏果しかとれない夏果専用品種があります。一般的な露地物のイチジクの収穫期は長く、夏の8月頃から10月頃まで。夏果は6月〜7月となります。
(文責：熊崎 忠)

